

愛西市総合斎苑建設について



田中秀彦 議員

質問

斎苑建設計画に際し、一部住民より現予定地での斎苑建設に反対運動が起きた事は承知の通りである。

本市の農振法13条2項の除外申請は、本年4月15日県知事の同意がされ、4月16日愛西市公告第51号の農振除外の公告がされた。都市計画法第13条7号の手続きは、4月15日県知事同意がされ、4月16日愛西市公告第52号で、津島海部西部都市計画火葬場の決定公告がされた。

よって、斎場建設に対する行政上の問題は無いと考える。また4月の市長選挙では、

斎場建設が一番の争点であった。

八木候補は、斎苑建設は市民のため必要であり、計画通り進めるとの公約で、1万8千927票獲得し再選された。斎苑計画を実施せよとの民意が示された。斎苑建設は計画通り実施を願いたい。

当初計画よりどれほど遅れているのか。その理由は、着工から完成までの工期、使用開始時期はいつ頃か。使用開始が遅れるほど、火葬費4千万円位の負担が発生するが、見解は。

市民生活部長

農振除外、都市計画決定に異議申し立てがあり、半年ほど工期が遅れている。造成工事は、本年9月契約した。本体工事は22年3月頃契約予定。完成は23年5月頃で、供用開始は23年9月頃の予定だ。本市の年間斎場維持費と負担金は約4千万円の支出。

質問

斎苑建設予定地は海拔マイナス2.3m位である。基本設計では、建物ホール床が0mである。今後地盤沈下が起こり、大型台風や大地震で海岸堤防などが決壊した場合、斎場が浸水し使用不能が想定される。今の設計より50cmは上げるべきだと考えるが、見解は。

市民生活部長

海拔50cmほど高くとの指摘だが、県の洪水ハザードマップでは2m〜5mの浸水と予測されている。駐車場や土盛り部分は海拔0mより低いが施設は0m以上で通常の浸水に支障ないよう計画している。

本市の救急体制について

質問

脳血栓、心臓病、交通事故などで心肺停止した重篤患者の蘇生率は1分以内で90%、9分以上は10%以下だ。一刻を争う重篤患者の搬入病院はどこか。本市の搬入時間は。

消防長

平成19年搬送総数2千294人、重篤患者161人で、海南病院88人、市民病院54人、尾西病院5人、その他14人。20年は総数2千36人、重篤患者156人で、海南病院55人、市民病院61人、尾西病院11人、その他29人の搬送。搬入時間は全国平均7.7分、愛西市の20年の平均は8分13秒。

